

チャレンジ支援委員会「おせっかい侍の発表応募支援 STEP1」報告書

チャレンジ支援委員：香月、末松、高橋、道法、内田

2026 年 7 月 18 日 10:00-12:00 オンライン開催

「交流ひろばのタネ探しー現場の課題や実践を交流ひろばの出展につなげようー」

2026年度の「おせっかい侍の発表応募支援 STEP1：交流ひろばのタネ探し」（オンライン）は、「交流ひろばに出展経験のあるゲストの体験談を聞き、参加者の実践にある『タネ』が交流ひろばにつながる一連のプロセスを知る」「自身の教育実践や現場の抱える問題点取り組みを言語化し、交流ひろば出展の『タネ』になる可能性に気づく」ことを目的に開催しました。当日は、所属や関心が多様な 7 名の方にご参加いただきました。

まず、「第1部：『はじめての出展』の体験談を聞こう」では、阪上彩子氏（奈良教育大学）と小村志保美氏（コミュニケーション学院）にご登壇いただきました。阪上氏は、過去 3 回の出展のうち、初めて出展した際のご経験をお話くださいました。「発表を通して言語化することで自分の関心が明確になったこと」「参加者に興味を持ってもらえたことが励みになったこと」など、出展を通して得られた成果をご紹介いただきました。小村氏からは、文化庁の研修をともに受けた仲間との共同発表についてお話いただきました。「好きなことから始める」という最初の一步から、発表に至るまでのプロセスを具体的にご紹介くださいました。発表後には、参加者から研究や実践内容そのものについての質問に加え、「自分の考えやアイデアを言語化するためにはどのような工夫をしたのか」といった質問も寄せられました。また、「交流ひろばにはどのような内容が適しているのか」「共同での出展は多いのか」など、交流ひろばを具体的にイメージするための質問もありました。大会にまだ参加したことがない方にとっても、交流ひろばの様子を具体的に思い描くことができる、有意義な情報交換の場となったと思います。

「第2部：グループワーク『交流ひろばにつなげるタネを一緒に探そう』」では、参加者が自身の興味や教育実践、現場での取り組みについて紹介し合い、交流ひろばにつながる「タネ」を探しました。チャレンジ支援委員が各グループのファシリテーターを務め、活発な意見交換が行われました。その後、全体でディスカッションの内容を共有し、閉会しました。参加者の中には閉会後に設けていた交流用のブレイクアウトルームに移動し、対話を深めている方もいました。

事後アンケートでは、「満足できた」「役に立った」との回答を多くいただきました。また、「参加者から新しいアイデアをもらったり、自分のアイデアを共有できたりして、とても有意義な時間を過ごすことができた」「想像していたよりもとても楽しい会だった。次は STEP2 や『わかばさん…』にも参加します!」といった前向きな感想も寄せられました。一方で、「会の冒頭に交流ひろばの概要説明があると、体験談を聞く際により理解が深まると思った」という貴重なご意見もいただきました。こうしたご意見を今後の企画・運営に生かしていきたいと思っています。

今回の企画は登壇者の方が等身大で飾らない雰囲気でお話くださったこともあり、活発な交流が生まれました。本企画が参加者の皆様にとって交流ひろばへの第一歩となれば幸いです。登壇者および参加者の皆様、どうもありがとうございました。

